

設問 I

【1】～【15】の文章は(一部省略した部分もあるが)すべて講義資料のプリントからの抜粋である。それぞれの著者名を[語群(人名)]から選び解答欄に記入しなさい。(適切なコメントが添えられていれば、加点対象とします。)

- 【1】《宗教と商売は異なるものである。》
- 【2】《時間それ自ら或る種の円環であると考えられる……》
- 【3】《中世の都市市民の置かれた政治的状況は、彼らをして経済人たるべき道を歩ませた。》
- 【4】《人口は、制限されなければ、幾何級数的に増加する。生活資料は算術級数的にしか増加しない。》
- 【5】《古代の政治家はたえず習俗と徳について語っているが、現代の政治家は商業と金銭についてしか語らない。》
- 【6】《すべてをなるにまかせよ、という原則ゆえに、生計の確保は危うくなり、家族への配慮も偶然の手にゆだねられます。》
- 【7】《決定的といえるのは、都会生活が、食糧確保のための自然との戦いを、人間をめぐる戦いに変えてしまったことである。》
- 【8】《社会の道徳的密度が高まるに従って、社会は、それ自身、城壁内に全民衆を包含している大都市に類似したものとなる。》
- 【9】《[婚姻とは]性を異にする二人格の、彼らの性的特性を生涯にわたって相互的に占有するためになすところの結合である。》
- 【10】《他人を幸福にせずには我々の幸福はありえないというのが宇宙の法則です。だから、何びとも自分だけでは飽きたらぬのです。》
- 【11】《人が大きな祖国に愛着を抱くのは、家族という小さな祖国を通じてである。良き市民を作るのは、良き父、良き夫、良き息子である。》
- 【12】《文明社会では、人間はいつも多くの人たちの協力と援助を必要としているのに、全生涯をつうじてわずか数人の友情をもちえるのがやっとなのである。》
- 【13】《ゲゼルシャフト的状態が国民もしくは国民からなる集団内部で一般的となるにつれて、ますます「国」全体あるいは「世界」全体が一つの大都市に類似したものとなる傾向がある。》
- 【14】《経済学者たちは奇妙なやりかたをする。彼らにとっては、二種類の制度、すなわち人為の制度と自然の制度とが存在するにすぎない。……この点では、彼らは、神学者たちに似ている。》
- 【15】《往時の奴隷制は世界の人口増に対して、今日の商工業がもたらすのと同じ効果を持っていたように思われる。人間は当時は他人の奴隷なるがゆえに労働を強いられたのであるが、今日ではおのれの欲望の奴隷なるがゆえに労働を強いられているのである。》

[語群(人名)] アリストテレス ウェーバー カント ジェノヴェージ ステュアート ジンメル スミス
 デュルケム テンニエス ヘーゲル ポルタリス マルサス マルクス マンデヴィル ルソー

【1】	【2】	【3】	【4】	【5】
【6】	【7】	【8】	【9】	【10】
【11】	【12】	【13】	【14】	【15】

設問 II 論述問題(裏面を用いること)

現代世界が直面している人口・家族・都市をめぐる問題点について、歴史的背景を踏まえながら、具体的な数値(概数でもよい)や事例を挙げて論述しなさい。